
仕方ねえだろっ！

ネッシー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仕方ねえだろつ！

【Zマーク】

Z1546F

【作者名】

ネッシー

【あらすじ】

俺は最近おかしい、あいつを見るときギョキする。つていうかあ
いつ男じゃねえかっ！－！

(前書き)

ギャグティストですが、ほんの少し下品な表現があるので、苦手な方は「」注意ください。

俺は最近おかしい…

同じ大学に通っている高津ヒロを見るとドキドキする。

はつきり言つて意味わからねえ

ヒロとは大学に入つて会つて、何となく気があつて、それとなく一緒にいる。

まあそんな感じの友達

俺が180位あってヒロはもう少し小さい。

別に色っぽい訳でも無く、超美形と言つ訳でも無いけど、なんか一緒にいると楽しいし安心する。

ただそれだけのハズだったのに、

それプラス変な感情が芽生え始めた、俺はこんな感情知らねえ…。

なんか、離れたくないというか、近くに居たくないというか矛盾した感情。

他の人に話しかけて欲しくなくて、自分一人で独占して、抱きしめて…

：

つて、俺何考へてんだよつ！――

あいつ男だわつ！――

いやいや、ちげえよこれは恋とはちげえ、
だって俺、可愛い女の子と付き合つた事あるんだ！

あの、愛しいとか一緒に西で楽しいとか思ひのが恋なんだ！

今の感情とは全然ちげえ！

今は一緒に居るのが苦しい時があつて、ヒロが他の奴と話している
とムカムカして……

ずっとこの顔を向いてて欲しくて、
あの柔らかそうな唇にキ……

：

…だつかあら、ちげえつ…！

俺の初恋はカナちゃんだあーつ…！！

はあ、はあ…

よ、よし、落ち着くんだオレ…

すうー、はあー…

…

おっ、あんな所にヒロガいる

…

心拍数が上がった気がするのは気のせいだ！（自分に言い聞かせてる）

…

つてか何であいつ不良っぽい奴に絡まれてるんだよっ？！

何だよこのギャグ小説みたいな展開っ！――

「おこ、止めのよー」

「別に良いだろ？　俺、高津の事好きなんだよねえ」

「はあ～…いやいや何句かひっかけたんの～マジで～」

これはあくまでも友達として助けるんだー…せましこ気持ちないで
じて無こつ…！

「おお、マジ×2　高津をオカズにしてヌコでんせ～」

「ニセニセ、マジで有り得ないから…」

俺はあんな卑劣な奴とはちがえ！

だ、だつてヒロを、お、オカズとか…

：

ち、ちがえよつ！ あれは不可抗力だつたんだ！！

「なあ、一発やらせてくんない？」

「マジで無理です。『めんなさい』。」

ただ助けるだけだぞ、向こうに行つて、ただ止めろつて言ひだけ…。
『友達』を助けるだけ…。

「まあ、どうせムリヤリしちゃうんだけどな

「おい、マジ本氣で止める！シャレになんねえ！
て、てかどこ触、ってんだ！ あ…」

友達を助けるぞ！ 友達、友達だ！

友達、と、まだち……

「お、おこ、ヤメロよ……」

「かわいいなあ～

「ち、くじょう、ゴ、ウト……」

ブチッ

「へめえつー！ 僕のヒロに触んじゃねえーー。」

不良っぽい奴を思いつきつぶん殴る

ズドンと鈍い音がして不良はヒロと離れて転がった、
そして頬を抑えながら起き上がる

「イテトリ……、やつぱりお前、アキテたのかよー。」

「うぬせえーー俺の純粋な片思いだ！ーー！」

その後もなんやかんや言こと合ひて、不良ばかりがへ行つてしまつた…

『氣まづい沈黙が流れゐる…

そしてヒロが口を開いた

「「ウ…
「こやあーマジド「メン… セリフの忘れて、つい感情的になつち
やつひりあー」

が、拒否の言葉を聞きたくなくて言葉を遮つた

「あ、でも、男に好きとか言われて氣持ひ悪いよな、俺だつて言わ
れたら氣持ひ悪いし…」

「「ウ…」

「うひいつか俺ら付合つてるとか噂されてたのかなあ？ そんな
に一緒にいるつもつ無かったのになあ」

「「ウ…」

「でも、安心じひよ？ もう近づかねえし、俺も避けよひりますから心配すこ…

「ゴウチー…」

ヒロの大声で俺の言葉がかき消された

一瞬の静寂が流れた…

「お前はそれでいいの？」

そんなの、はつきり言つて良いわけ無い、でも、俺のせいにヒロの人生までメチャクチャにしてしまう訳にはいかない…。

「つていうか男好きになつたとか人生最大の汚点？ マジドありえ
ねー」

俺の今の精一杯の笑顔で言つてやる

俺は…やつと気づいた。ヒロがそういう意味で好きなんだと

俺はヒロの幸せ為だつたら何だつてする。

世界中の敵にしたってヒロだけは命をかけて守ると誓える…。

好きだと自覚したら色々な感情が出てきた、こんなに好きだったんだ

こんなに人を好きになるなんて、この感情はヒロが好きすぎて気がつかなかつた。

大切で…大切で…、ずっと一緒に居たい…。

でも、ヒロには後ろ指さされるような事は絶対させない！

俺と付き合つなんてもってのほかだ！

あんなに良い奴をほつとく女なんて居ない
俺がいなくてもヒロは幸せになれる、

でもその恋は近くに居たら応援出来ないと想つ…

だから離れる…

俺がツラくたってヒロが幸せならそれでいい

俺の幸せはお前だヒロ…

だから…

「俺にさしつづくなよっ。」

ヒロは黙つていてその表情からは何も読み取れない

長い沈黙が流れた…

「じゃあ、もう俺行くな」

もう一度と会わないんだと、心に決めて、不自然なくらい明るい声で言つ。

悲しい顔なんてヒロにも俺にも似合わない、最後くらい笑顔でいた
い。

決心して俺が行こうとしたとき、ヒロ「服の裾を掴まれた

「…待てよ

一応、予想の範疇の反応なので振り向いて応える

「なに、どうしたの？ 俺と一緒に居たらさつきの奴みたいに襲つちやうぞ？ みんなの前とかでキスとかしちゃうかもなあー」

そしてコイツの優しさにつけ込む

「それにさあ、俺ホントは女の子と恋愛したいんだわ。
なのにヒロなんか好きになつて頭冷やしたいなあと思つて、近くに
居たく無いんだよね

これが最低な行為なんだと分かった上でやつてこる。

全てヒロの為に…

袖を掴まれた手にギュッと力が入った…。

「俺は一緒に居たい…。」

んな、なんて事を言い出すんだこの子はつー…?

その言い方はちよつと俺、誤解しちゃうんだ?

「ヒロ、お前、俺の事好きだったの?」

「はあ? んな訳ねえだろ? まあ好きいちも好きだけど、それは

友達としてだー！」

「じゅあ…

「うるせえー！ 僕の友達あんまりねえんだぞー。こんなに良い友達を失いたくない！」

いや、嬉しいけど…

「お前にはたくさんの友達が出来るつー、彼女だつてすぐ出来る。俺が保証する」

「うるせえーうるせえー！ なんでお前そんな平氣な顔してそんな事言えただよー！」

心の中ではグチャグチャだけどな

「ダメヤ…」

「どうしたら、お前と一緒に呑みられる…？」

おれはこの時、良一とを想ついた

「俺にキスしてくれたら良いぞ？　お前のファーストキス」

「…」

「口」と笑つて言つてやると、ヒロは案の定、口を開いて固まつてこう

「ほんとだよな事考えてこる奴と一緒に居られないだろ？　じゃあな！」

よし、今度こそ終わらだと、ヒロの手を外し誰もいない教室を出る

決心したにもかかわらず、やつぱり口は愛しく想いつ。

家に帰つたら思いつき泣いとか考えてたら、後ろからタツタツ
タ…と足音が聞こえて、
何だらうとか思つて振り向いてみると…

顔を両手で挟まれて…
思いつき下に引かれて…

唇に柔らかい……と、いつか…

歯にガチャンッと歯が当たる感触…

い、色氣ねえーとか思つていろると

顔をすぐに離したヒロが顔を真っ赤にして一言

「一、二、三、四、五、六、七、八、九、十」

俺がポカーンとしてると…

「ハイ！ つて言えつ……！」

「は、ハイ！」

ヒロはその真っ赤な顔のまんま走り去つていった。

俺は今、目の前で起こった事が信じられなくて、その場にへたり込んでしまう

「なんだよ……それ……」

真っ赤になつた顔を隠すよつて両手で覆い、今走り去つた可愛い生き物を思い出し。

顔がにやけるのが止められ無かつた。

~end~

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1546f/>

仕方ねえだろっ！

2010年10月15日03時34分発行